

46 全六甲山脈縦走

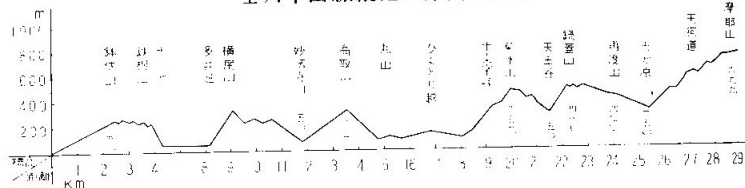
健脚家の耐久鍛練向き 56K (map) (5万) 須磨, 神戸, 大阪西北部

塩屋・須磨浦公園	2.5K 35分	鉢伏山旗振茶屋	9.5K 2時間40分	那須神社
1.5K 40分	高取山頂	3.5K 40分	神鉄鶴越駅	3K 1時間
1.5K 20分	再度山大竜寺	1.5K 15分	市ガ原	3K 1時間半
6K 1時間10分	六甲記念碑台	6K 1時間10分	摩耶山頂	6K 1時間10分
1.2K 15分	最高峰一軒茶屋	0.3K 5分	鳥居茶屋	0.3K 5分
1K 15分	縦走路分岐点	2K 30分	水無山	7K 1時間50分
		3K 30分	船坂峠	3K 30分
			塩尾寺	3K 30分

＜注＞ 以上は実歩行時間で855分、すなわち14時間15分である。食事回数4回、1回当たり10分として40分、その他小休止通算30分として休憩時間の計70分。合計所要時間15時間25分となる。まづこの程度が普通の健脚家の標準であろう。若干の記録実例を別表に記しておいたから参考とされたい。

六甲山の各コースについて説明をしてきたが、これでご承知いただいたように、一口に六甲といっても東は宝塚から西は塩屋、須磨に至るまで、10%ないし15%の幅をもって延々55%の長さにおわたって山脈が続いているので、ずいぶんと広くかつ変化に富んでいる。部分的にいずれのコースをとっても、たっぷりと1日がかかりでハイ

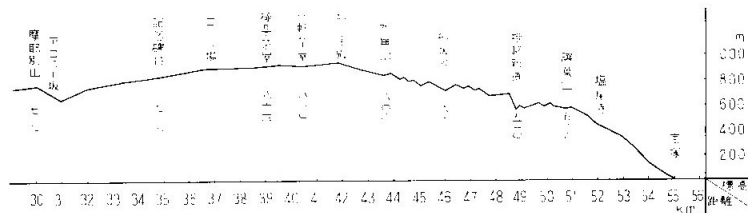
全六甲山脈縦走の標高と距離



キングが楽しめるのである。その数多い六甲登山の総仕上げに、全六甲山脈の縦走計画を登場させよう。この塩屋・須磨―宝塚の山稜線のひとつひとつを忠実に登り下りして、これを1日のうちに踏破しようとするもので、歩く距離56%、登る高さの累計2,000%、所要時間14―16時間の強行軍である。

いかがですか、やってみませんか。これが成功できると初めて、あなたは登山家としての標準点がもらえ、六甲登山の卒業証書がもらえるのです。その体力と意志力とは、日本アルプスへ登っても大丈夫、ということになるのです。全縦走をやったよ……といえば、一応敬意を表され、山仲間にもいれてもらえるというもので、リーダー格となる資格のひとつでもあります。ではさっそく次の日曜日にでも……と簡単におっしゃっても、そうは間屋が卸しません。実はなかなか大変な事業なんです。まあたいていの人は、何回かの失敗の後に、あるいは何年かの後に、やっと大願成就するのが普通です。これは大きな山行の計画や実践のそれにも似た、物心両面にわたる綿密、周到な準備が必要であり、燃える闘志と体力が要求される。それだけにまた愉快なすばらしい計画なのです。20歳代の元氣な若い人でも多くは落伍するが、50歳、60歳でも楽しくやれます。ぜひ試みてください。では、この計画の内容について気のついた点をお話ししましょう。

出発点 東の宝塚、西の塩屋・須磨のいずれから出発するかは、成功に重要な関係がある。後に述べるように長時間かかるので早朝出発の必要があるが、住居や交通機関などの都合もあるのでいずれを出発点とされてもよいが、コースの状況からすればなるべく西から出て東で終わる方が得策であろう。その理由は、東からは1.宝





塚から最高峰までは標高差 900 位の登りで、すくなくとも 4 時間以上かかり、まず最初の行程でかなり疲れてしまうこと。2. 夜になる部分が高取山以西の、登り下りがはげしくやせ尾根やはげ山や分岐路の多い小道が多いことなどで、危険かつ迷いやすいこと。西からは、日の高いうちに変化のはげしい山稜線のコースを終了し、摩耶山あたりで夕方になるが、後の 27.4km の前半 14.4km は六甲山上部の平坦な道であり、後半の 13km 東六甲縦走路は部分的には起伏はあるにしても、とにかく山頂から平地へ下るので、長途の疲労した身体には負担が軽いこと、などである。もともと、この東六甲縦走路も小道で分岐路も多く山が深いので、迷いこんだら難物である。ことに途中で逃げこむ方法がないので、一度進みだしたら最後までがんばり通さねばならない。普通は西の塩屋または須磨から始めるのが順コースで、東の宝塚からの逆コースといわれている。以下順コースを標準に説明する。

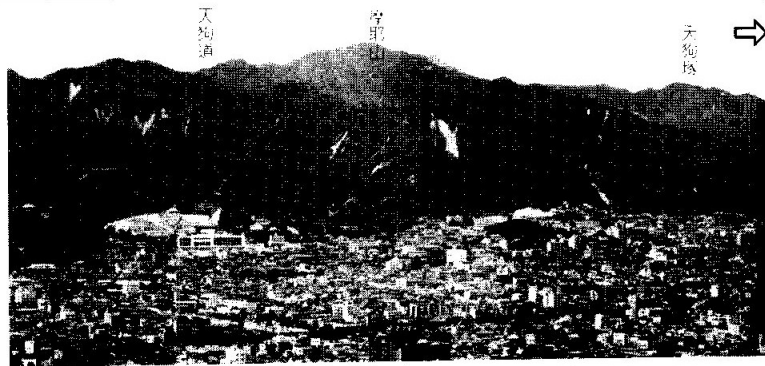
行程 山稜線を忠実にたどるので、登り下りがはげしくひんばんであるため、単に地図上で平面的に計った距離と、実歩行距離と



はかなり相違があるが、実距離は少なくとも約 56km はあろう。これを 1 日中に踏破するためかなりの強行軍となるが、天候（六甲の天気は変わりやすい）と、疲労その他の理由で途中で挫折しても、安全に処理できるのもこのコースの特徴である。まず第 1 の関門は菊水山、第 2 関門は摩耶山天狗道、第 3 関門は摩耶山頂、第 4 関門は六甲ケーブル駅——これまでは随時いかようにも落伍者の処理ができるが、六甲ケーブル駅以东は 20km 以上の夜の山道を完遂する以外に手がないので、ここでリーダーは前途の見透しをたて、責任ある決意をしなければならない。中途半端に何とかなるだろう……程度では困ったことになる。たいていの場合、最初 10 人で出発したパーティも、ここで全員中止敗退するか、2、3 人の強者だけで敢行し、他はケーブルかロープウェイで町へおろすか、になるのが常である。

この縦走は個々の道順を充分に知りつくしていなくては駄目で、現地でウロウロするようでは成功おぼつかない。そのためには、事前に何度かの綿密な実地踏査を積み重ねて、自信を深めて初めて実施できる。特に夜道の部分においてはなおさらである。





時期 上述のようにコースを熟知しさえすればよいかというと、それだけでは困難で、季節の選び方が重要なカギとなる。夏期は日長く夜道がまぬがれてよいように思われるが、高温多湿のため苦しく疲れるので、致底不可能である。早春か晩秋が最も適当で、できれば月夜を選びたい。

所要時間 20歳台のもっとも元気な若者は13-14時間、40歳以上では15-16時間あたりがまず標準だろう。もっとも記録作りの目的で全コースを牟駄点（いだてん）走りしたある若者の8時間35分というものもあるが、これは別問題であろう。別表にくわしく記したから、参考とされたい。したがって出発は朝6時か遅くとも7時とすべきで、途中食事以外はほとんど休みなしのぶっ通しで歩いても、順調にいて宝塚に着くのが夜の8時か9時ごろになるだろう。

装備 クツは底の厚い革の登山靴がよい。キャラバンシューズは爪先を痛める場合があり、運動靴やこれに類する程度の履物は不適當である。爪先やかかとに石鹼を塗っておくと靴ずれが防げる。

装備は軽くした方がよいが、防寒衣や懐中電灯はぜひ必要。食糧



は行動食2食程度でよく、なるべく途中の食堂などを利用したほうが荷が軽くて得策。食事は4度か5度に分け簡易に腹七分目ぐらいで行動すること。疲労の際はチョコレートやレモンなどは回復に効果があるから携行した方がよからう。水場に乏しいところが多いのでテルモス、水筒の類は忘れぬように。以上のほか一般的な登山者としての注意を守ってもらうことはもちろんだが、要するに

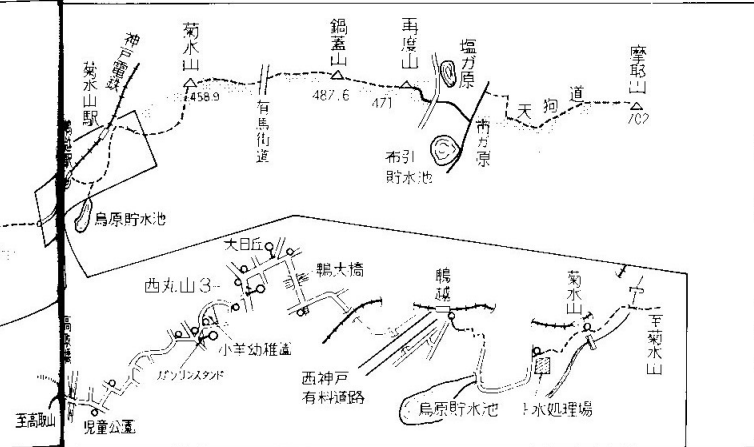
1. 事前に充分の調査研究をすること。
2. パーティの質をそろえること。
3. 烈々たる闘志と聰明な判断とが必要であること。

などの条件を忘れないように。

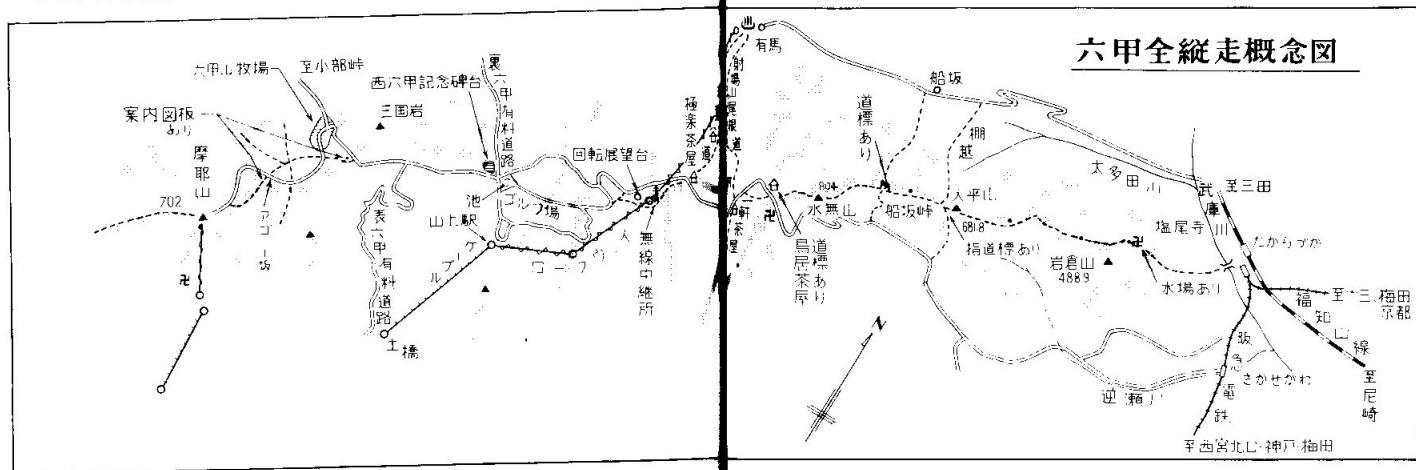
コースの概要とその要点 出発点の鉢伏山は、塩屋からでも須磨からでもどちらでもよいが、とにかく山頂に登り尾根通しに縦走して須磨アルプスから白川街道の妙法寺にいったんおりて、高取山を西背面から登る。頂上を下ったあたりには茶店が数軒あるから第1回の朝食をとればよい。汐見茶屋の南手から丸山へ下る。丸山から菊水山麓の鶴越（ひよどりごえ）駅または菊水山駅までは、市街の



菊水山は最初の関門である。というのは、須磨の背山を元氣にまかせて無思慮に行動していると、まずここでへばってしまう。屹立（きつりつ）した山頂への急峻な棒道を敬遠して谷筋を街道へ出、さらに高座（こうざ）から再度山の極楽谷をつめて七三峠から再度山へぬげる手があるが、これは明らかにカンニングで、これをやっては、たとえ宝塚まで行っても、私は全縦走をいたしました——と



これからが**第2の関門**である。トエンティクロス、徳川道を経て西六甲へ通じる谷筋の道の方が楽なので、ついカンニングしたいところだが、これも絶対駄目。男の子なら（女なら）、急峻な標高差



500位の天狗道の登りをがんばらねばならない。たしかに、疲れた身体にこの天狗道はつらい。この難関を突破してやっと摩耶山頂につけば、もう夕方である。早朝から休みなしですでに25.6%は歩いているが、これでやっと全行程の半分か、と思えば疲れがどっと出てくる。ロープウェイが目の前から発着しているとれば、たいてい人は、ここで「もうやめた」と欲得なしで敗退してしまう。これが第3の関門である。ここが辛抱のしどころで、「何くそ!」と頑張ること。しかし正直いって、ここで思案する程度なら前途の見込みなしで、せいぜいがんばっても六甲ケーブルあたりで中止した方が賢明であろう。このロープウェイ駅の食堂で第3の食事をとる。

摩耶別山からアゴニー坂をくだり、市立の自然の家の横から山稜を記念碑台へ向かうと、ドライブウェイの舗装路に出る。ここから東六甲最高峰の鳥居茶屋までの約10%は坦々たる広い道なので楽だが、記念碑台あたりで最後の重要な判断をしなければならない。ここが第4の関門である。ここからなら六甲ケーブルで市街へおりられるが、これから先は約20%の山道をいやが応でも自分の2本の足で歩かねばならない。途中で、もう駄目だ、と弱音をはいてもどうしようもないので、前進か敗退か、の決断の最後のチャンスとなる。十中八、九はここであきらめるはめとなるが、それでよいので、無思慮な空元気の強がりは禁物。すこしでも不安があれば、いさぎよく思い切るべきだ。

最高峰下の軒茶屋をすぎて鳥居茶屋につくころは、もう夜の幕は降り星がきらめいているだろう。第4の食事を取り、夜道の支度をする。防寒衣を着こみ、ライトをつけ、靴の紐をしめ直し、いよいよ最後のコースに出発だ。鳥居茶屋をすこし行ってから東六甲縦走路にはいる。このコースは小さな登り下りの起伏が多く、細い山径で石ころや木の根が多く、林でも歩きにくい。さらに分岐路が随所にあり、迷いこんだら大変なので、よく注意し合って行動することが必要だ。ことにパーティの隊列は乱れないように絶対に固まって動くことが肝心である。とにかく足もとに気をつけて、たがいに

声をかけ合いながら行進する。塩尾寺(えんべいじ)に到着すればもう占めたもので、あとは宝塚まで重い足を引きずること30~40分で、武庫川にかかる大橋に出る。

川面に映る旅館、料亭の華やかな灯を見、来し方の漆黒の山谷をふりかえるとき、「やったぞ!!」の感激が胸にこみあげてくる。

これで、あなたも一人前の山男、山女になれたのだ。

ある登山者の縦走記録

地 名	距 離 K	20歳台 4人 (10月28日)			50歳前後 3人 (3月23日)			60歳台 40歳台 5人(2月4日)		
		到着 時刻 時分	実働 分	休み 分	到着 時刻 時分	実働 分	休み 分	到着 時刻 時分	実働 分	休み 分
塩屋		7:35			6:05			5:00		
旗振茶屋	2.5	8:06	31	8	6:40	35	15 (食)	5:30	30	5
萩の寺	9.5	11:00	166	15	10:05	190		7:47	132	5
高取山	1.5	11:45	30	15	10:40	35	30 (食)	8:17	25	15
鴨越駅	3.5	12:40	40		11:45	35				
菊水山頂	3.0	13:50	70	25 (食)	12:45	60	15 (食)	10:12	100	5
鍋蓋山頂	2.5	15:00	45		14:10	70		11:10	53	
再度山	1.5	15:20	20		14:50	40				
大竜寺										
市ガ原	1.5	15:31	11		15:05	15	15	11:55	45	15 (食)
摩耶山頂	3.0	17:05	94	15 (食)	16:50	90	40 (食)	13:20	70	5
記念碑台	6.0	18:28	68		18:40	70		14:30	65	
一軒茶屋	6.0	19:25	57	5	19:50	70		16:00	90	25 (食)
鳥居茶屋	1.2	19:38	8	2	20:00	10	5			
縦走路 分岐点	0.3	19:48	8		20:20	15				
水無山	1.0	19:58	10	2	20:35	15				
船坂峠	2.0	20:15	15		21:05	30		17:00	35	
塩尾寺	7.0	22:00	105	2	23:05	120		18:35	95	10
宝塚駅	3.0	22:30	28		23:40	35		19:00	15	
合 計	55.0	14:55	13:26	1:29	17:35	15:40	1:45	14:00	12:35	1:25

交通機関問合せ先

(五十音順)

神戸市交通局(バス, 地下鉄) 相談所 ☎078-321-0484
 神戸電鉄 ☎神戸078-575-4011
 神戸電鉄自動車部 ☎神戸078-982-3152
 山陽電鉄 ☎神戸078-941-6936
 山陽バス ☎神戸078-782-2043
 新神戸ロープウェイ(神戸市都市整備公社) ☎神戸078-251-8301
 阪急電鉄 ☎大阪06-373-5215 三宮駅 ☎078-331-4802
 阪急バス ☎大阪06-866-3165
 阪神電鉄 ☎大阪06-347-6118 三宮駅 ☎078-221-1254
 阪神電鉄自動車部 ☎大阪06-416-1351
 北神急行電鉄 ☎神戸078-581-1076
 摩耶ケーブル(六甲摩耶鉄道) ☎神戸078-861-2240
 摩耶ロープウェイ(神戸市都市整備公社) ☎神戸078-271-1160
 六甲有馬ロープウェイ(神戸市都市整備公社) ☎神戸078-891-0031
 六甲ケーブル(六甲摩耶鉄道) ☎神戸078-861-5288

著書略歴

明治44年神戸市に生まる。
 昭和7年神戸高商卒。
 神戸市各局長を経て、会社役員、団体役員等。
 神戸芸術文化会議常任委員。
 日本山岳会会員。神戸市山岳部、稜線山岳会OB。
 「太陽と緑の道」専門委員。徳川道調査委員長。
 六甲全山縦走市民の会会長。
 六甲については60年余にわたって登っている。
 著書 「絵のある随筆」
 「話の歳時記」
 「火の見やぐら」
 「ぶらりヒマラヤ」
 「ぶらり旅日記」

六甲山ハイキング

1963年7月1日	第1版第1刷発行
1970年7月10日	第2版第1刷発行
1975年6月1日	第3版第1刷発行
1984年4月1日	第4版第1刷発行
1993年7月20日	第4版第6刷発行

著者	おおにし ゆういち
発行者	大西雄一
印刷所	矢部文治
	岩岡印刷株式会社

発行所 株式会社 創元社

(〒530) 大阪市北区西天満1-4-2

TEL 大阪 (363) 2531

〈東京支店〉(〒162) 東京都新宿区山吹町334-11

TEL 東京 (3269) 1051

*本書の全部または一部を無断で複写・複製することを禁じます。

*落し・乱しはおとりかえいたします。(同業製本)

©1963 Printed in Japan ISBN4-422-24006-4